



北海道発信の現場ニュース 中央情勢もタイムリーに

情報提供等や TEL 011(221)7777
購読申し込みは FAX 011(281)2678
Eメール kaigo@medim.co.jp

年間購読料=本体価格15,000円+税

「GHは平穏死実現できる場」

看取りテーマに長尾医師講演

道認知症グループホーム協会は1月28日、札幌市内で看取りをテーマとした自主研修を開催した。写真。

在宅医として17年間で500人以上の患者を自宅で看取ってきた、兵庫県尼崎市の長尾クリニック院長の長尾院長が「がん、認知症、死ぬまでハッピー」と題して講演。終末期について「医師が決めるのではなく、本人の自己決定によるもの。亡くなった後に『あの

協修 GH 道自

身がむくみ、変化に対処するほど苦痛が増大するケースの多い

「死」は「平穏死」と「延命死」に分けられるとし、前者は「枯れて死ぬ」、後者は「溺(おぼ)れて死ぬ」と表現。死が近づくにつれて栄養・水分摂取が少なくなる「省エネモード」となることで体重が徐々に減るが、最期まで口から食べられるなど、自然に死を迎えられるのが平穏死だという。胃ろうや点滴等で全



抗認知症薬適量処方について情報を提供。長尾院長は一般社団法人抗認知症薬の適量処方を実現する会を立ち上げており、「その人にとって適切な量を極めることが重要」と指摘。抗認知症薬で怒りっぽくな

1回5000円の利用料で、認知症の介護する人もされる人も一緒に食事をする場。介護者支援にも力を注いでいるのが特徴で、介護者は残り物を食べることで多くなり健康状態が低下するケースの多いのを踏まえ、食を通じて支援することが目的だ。そのほか、ついで場ではボランティアスタッフによって要介護5でも旅行を実現させ、看取りまでも行う。

理事でもある長尾院長は看取りについて、死生観や看取りの文化を共有できる多職種研修会開催を提言。「主導となる医師を見つけることもポイント」と助言した。